

令和7年度 旭川市中小企業審議会 第2回会議 会議録（要旨）

○日時 令和7年12月18日（木） 10:00～11:45

○場所 総合庁舎 7階 大会議室C

○出席者 委員）米沢副会長、久木委員、岡澤委員、菊原委員、楠本委員、今委員、伊藤委員、邊見委員、桑野委員、早苗委員

事務局）三宮経済部長、石崎経済部主幹、小島経済部次長（経済総務課長）、住吉経済交流課長、小松経済交流課主幹、後藤産業振興課長、青葉企業立地課長、青木企業立地課主幹、内田工芸センター所長、田村経済部次長（旭山動物園長）、中田旭山動物園主幹、加藤旭山動物園副園長、上田観光スポーツ部観光課長、大川観光課課長補佐、木村観光課主査、上平経済総務課主幹、皆川経済総務課経済企画係主査、酒井経済総務課経済企画係主任、

○会議資料 次第

資料1「令和6年度 主要施策の成果報告書」

資料2「令和8年度 経済部の施策と主な事業内容」

資料3「令和8年度 旭山動物園の取組について」

資料4「令和8年度 観光課施策の概要」

資料5「宿泊税の検討に関する進捗について」

資料6「使用料・手数料の見直し案」

資料7「旭山動物園入園料の改定について（案）」

資料8「令和8年度 機構改革について」

1 開会

2 経済部長挨拶

3 議題

(1) 令和6年度 主要施策の成果報告書について

資料1に基づき説明。質疑なし

(2) 令和8年度 経済部等の主な取組について

資料2、3、4に基づき説明。次のとおり質疑があった。

(委員)

あさひかわ菓子博へ協力いただいたことをお礼申し上げる。業界としても一丸となっ

て取り組んで、全国規模のイベントを行うことができたことはひとつの誇りとなっている。また、次年度も開催していただけるとのことで、それにあわせて地域の食材を活かした新しい工夫に活かせると思っている。

(経済部主幹)

旭川で全国でも28回しかやっていない全国規模の菓子博を開催できたことは、旭川は実は菓子の産地であることを知ってもらうきっかけとなった。

このイベントを一過性で終わらせることなく、レガシーとして継続させて、例えば子どもたちが楽しめるイベントや工芸菓子みて作ってみたいとか、菓子を通じて子どもたちの夢や希望の選択肢が生まれるといい。

今後菓子業界の皆さまが主体的にやっていただくので、行政として最大限バックアップしていきたい。

(委員)

中心市街地活性化は具体的にどういうことを重点にされていくのか。

(経済交流課長)

商店街振興ということで、各団体の皆様と一緒に様々な取組を行っている。

買物公園の賑わいづくりでは、エリアプラットフォームというかたちで新たに組織して、中心部に来ってもらうきっかけ作りの取組をしている。食べマルシェも中心部の賑わい作りの一環として考えている。

引き続き商店街の皆様と一緒に、支援になるような形の取組みについて検討していく。

(委員)

新規事業のサステナブルデザイン都市活動費で、デザイン思考による中小企業の稼ぐ力を強化するためという目的があるが、具体的に事業内容でイメージされているものがあれば教えて欲しい。

(産業振興課長)

2019年に旭川市はユネスコに加盟したが、これまで協議会の会員中心で取り組んできた。これからは市民の皆さんが参加するかたちで取組を進めようと、今年は創造都市推進協議会に4部会作って取り組んでいる。

昨年ユネスコのデザイン都市会議を開催したときも、旭川デザイン宣言ということで、旭川の自然環境や文化が非常に深く評価を受けたので、拠点に集まったり考えたりという形で動きを作っていきたい。

また、デザイン思考は、ものを発見したりまちの魅力を見つけたりして、そこから考えて実際行動に起こし、循環することによって創造産業が創出されていく。集まる場や考える場がまだまだ少ないので、そのあたりを評価しながら進めていきたい。

デザイン経営では、現状取り組まれてる企業で実績を上げてる部分もあり、行政だけでは推進していかないので、産学官金で様々な分野の方々に集まっていただきながら、どう進めていくか具体のアクションを起こしていきたい。

デザインというのは時間がかかるので、アクションに残りにくい部分もあるが、見える形にしていけるように活動を推進していきたいと考えている。

(委員)

菓子博は観光業界としてもありがたかった。大成功だったと思う。北海道の中でいちばん宿泊料金が高いのは札幌というのは想像つくと思うが、菓子博の期間は札幌を超えて旭川がいちばん宿泊料高かった。次年度、レガシーで開催されるということで観光業界も力を合わせてやりたい。

質問が2点ある。まず、企業誘致の関係で、令和7年度でいうと実際にマッチングがうまくできたケースは何件かあるのか。

(企業立地課長)

令和7年度は現時点で2件誘致が決まっている。

マッチングとしては雇用支援の要望がいちばん多く、高専や市立大など就職担当の先生に繋ぐなど支援している。また、企業を招聘した際に市内企業と繋いで、旭川の状況について企業目線からお話ししていただいて好評いただいている。企業誘致は全国的な競争であり、最終的に選んでいただけるよう、令和8年度も引き続き、様々なニーズに寄り添っていきたい。

(委員)

東京旭川会や関西の旭川出身の人と一緒させていただく機会があるが、地元愛ということで、情報を私たちに伝えたいというような動きもされておられた。そういった方々との情報交流もしていただいて、地域に企業進出も図っていただければと思う。

もう一点が、動物園の入園者が減っている。

全国規模でいうと、観光の時期はGWや夏のイメージがあるが、地球温暖化の関係で、夏場の旅行が手控えになりつつあり、春先や9月以降の観光需要が大きくなっている。

必ずしもこれが原因で人が減ったということではないとは思いますが、今後の気候変動が旭川にどれだけ影響してくるかわからないが、4月、11月で動物園の整備のため大規模な休園をしているところを、逆に2月下旬から3月くらいに閉園して4月は開園した方がいいという状況になっていく可能性もある。

我々も持っている情報を動物園と共有させていただいて、今後どういったかたちの人の流れになるのかを踏まえて、検討していただいた方がいいかと思ったので、お伝えしたい。

(旭山動物園長)

旭山動物園の休園期間については大きなテーマ。

全国的には、定期的なお休みを毎週あるいは月に数日取るという動物園が多い中で、旭山動物園は基本的には一度開園したら休みなしとして、その代わり積雪の多い動物園なので、冬から夏、夏から冬に変わるときに一定のまとまった休園期間をとっている。

屋外型のため夏は敬遠される施設になってきており、夏は水族館の方に行きがち。私達の要因の分析の中でも、夏は今後やっぱり減っていくと考えている。

雪が溶けるのがはやくなれば、例えばご提案のあった2月や3月にずらすとか、休園時期も少し前倒しになるかもしれない。一方で、ペンギンの散歩も皆様に楽しんでいただきたいので、雪もなんとか集めて実施している部分もある。

様々な観点で総合的に考えながら、よりよいかたちを業界の皆様方と一緒に考えていきたい。

(企業立地課長)

企業誘致のところで補足させていただく。

具体的な企業のマッチングの事例で、有明産業、デンマークのアイラーセンの進出が決まった。どちらも1年から2年ほど折衝にかかり、いろんな候補地があったが最終的に旭川を選んでいただいた。

その期間、地場の企業さんのご協力もいただいた。有明さんは樽が非常に有名で、樽だけでなく中身も作りたいというオーダーで、麦芽に関して市内の農協さんにご協力いただいて試験栽培も始まっている。2027年5月から稼働を予定しており、動物園通産業団地を買っていただいている。移住含めて20名規模の雇用を見込んでいます。建築についても、地場企業と接点を持っていただいている。

もう一件のアイラーセンはほぼ英語の折衝でかなり苦労したが、廃校を利用していただけるということで最終的に決まった。早ければ来年度中に稼働できればということで支援を継続している。こちら設計については、市内の事業者へ依頼しており、建築についても地場企業に依頼されるのを期待している。これ以外にもIT企業中心に10社以上折衝中。各所に協力いただいております、引き続きマッチングしていきたい。

(委員)

庁内ではすでに話し合われているかもしれないが、今回まとめていろんな取組をきいたため、いろんな事業を組み合わせるとはどうか、例えば地方拠点と冬季観光と企業誘致

を組み合わせるとはどうかという感想を持った。

淡路島に本社を移した会社や、南紀白浜に施設を作ってワーケーション的なものを作ったり、デジタル社会でITを呼び込む取組などを報道で見たことがある。従業員が冬季観光も楽しめるような場所でもありBCP的に地震が少ないことにあわせて、企業誘致で、雇用の促進やワーケーションと全てを組み合わせたとような形のパッケージの誘致みたいなものがあつたらまた違う話もあるのかなと思う。

質問が一点。醸造文化は日本酒はインバウンドの方も親しみやすいと思う。味噌や醤油もやり方によってはインバウンドの方にも受け入れられる可能性があるのか、それとも国内をターゲットにしているものなのか。

(観光課長)

旭川のものづくりは、昔からの酒蔵や、今では味噌など、いろいろなものが作られている。そうした食文化はインバウンドの方にも響くものと思う。他都市や地元の方でも、旭川でこうしたものが作られていることを知らない方が多い。

歴史的な背景や、気候・文化によって、こうした素晴らしいものづくりが育まれて、見学をできる工場もある。衣装を着て写真を撮影できるところもあり、海外の方にとっては旭川らしい体験で、喜ばれていると思う。

(産業振興課長)

産業の視点からは、旭川は蔵元が3蔵いる。地ビールもあって東川町や上川町とお酒の蔵元がこの地域に集中している。それは水と米という資源があるからと思う。

食文化、発酵文化は発信しないと伝わらないということがある。旭川は昔から醤油とか味噌とか酢とかいろんな企業が実はあつたという歴史的な背景もあり、それがまちの発展を支えてきたという部分もある。今、発酵醸造会の方で文化ということでもとまっていたきながら、民間主導、行政サポートの取り組みが進んでることは非常にいい取り組みと思う。

海外の方からは、醤油など調味料も非常に高い評価を受けており、その辺を発信することによって産業の輸出にも繋がっていくと思う。発酵醸造界と連携しながら、うまく発信していきたい。

(企業立地課長)

ワーケーション、テレワークについてはおっしゃるとおりで、コロナ収束後、会社帰りの動きが進んでいるが、引き続きまだ需要もあるので推進していきたい。スキーやアウトドア好きな人は旭川配属になると長期の所属になる傾向がある。誘致の際には子育て環境やアフターファイブの部分を含めて情報を発信するようにしている。

BCPという観点での発信もしている。オフィスは香港でも沖縄でもいいが、地震が少

ないという理由で旭川を選んでいただいた企業さんもある。また、中心部のオフィス以外で、空き家を利用して、BCPの観点から旭川を選んでいただいたIT企業もある。

今折衝している企業からBCPのお話をいただくこともある。幅広く、情報を入れ込みながら誘致していきたい。

(委員)

菓子博については来年以降も検討していくということで、外から見てもお菓子と旭川というのはイメージつきやすいもので大事な要素だと思うので、期待したい。

事業の中でいくつか人材育成がある。この分野の話は、即効性や費用対効果でみると説明しづらい場面もあるかと思うが、将来的に見て、地域を支えるとか、また新たな考えで地域をリードしていくという意味合いで見れば非常に重要なことだと思うので、引き続き大事にしていただければありがたい。

(委員)

夏の観光が減ってきている件は、旭川の旅行される方も8月は回避する動きが多くなっていると感じる。9月でもまだ暑く、9月末もしくは10月にずらす傾向もあるが、10月は修学旅行シーズンでホテルが取りづらいため、旅行会社としてはできれば9月中に個人の皆さんには旅行いただきたいという思いがある。

一方で、インバウンドは確かに冬期は増えているが、最近の地震で海外の観光客が不安を感じ、旅行中止寸前まで気持ちが揺れるケースが見られた。また、中国からは団体はほとんど来なくなったので、地震や政治的な観点で海外からのお客様は予告もなく減少することもあるため、国内のお客様の動きを活性化するのが非常に大事と思う。

一点質問。菓子博はチケット販売はあるのか。入場料を取るのか、それとも今回入場料はなしでお菓子販売のみに留めるのかもし決まっていたら教えていただきたい。

(経済交流課長)

菓子博については協議しているところ。基本は無料でやる予定。

(観光課長)

夏場の観光客は減少したが、上期では増加している。要因としては菓子博のインパクトが大きかったということや屋内観光施設が好調だったことが要因。科学館のゴジラ展や道立美術館のジブリ展も人気を集めた。近郊は減少しているが、旭川は観光入込が増加し、宿泊も好調。

旭川は直接的な地震の影響はないが、海外の方は同じ日本と捉える。この辺りの情報発信が必要だと思う。東日本大震災直後も旭川は地震の影響はなかったが、インバウンドがほぼ0になった。正確な情報を広く発信していきたい。

一点資料4の訂正をさせていただきたい。観光入込客数の部分で令和5年度の宿泊延べ数は97万4,200泊、外国人宿泊延数は21万1,121泊が正しい数字となる。

(委員)

旭川は、菓子博のお菓子やラーメン、醸造も新たに加わり、お米も含めて食べ物がすごくたくさんある。

フードフォレスト構想の中に取り入れられるのかなと思うのが、なぜ旭川が食べ物美味しいのか、なぜこの食材かといった歴史や文化も含めて、バックボーンがわかるような形にしていただけると、お客様に説明するときや、子どもたちに対して発信できるようになると思う。

特に醸造については、キッコーニホンさんは今あの場所では作られてないのかなと思うが、昔は前を通ると醤油のいい匂いがしていたのが記憶に残っている。残していくことはとても難しいことかもしれないが、本州の方にはまだそういう醤油蔵が残っていると、昔ながらの作り方されている蔵があるので、もし可能であれば醤油の匂いが漂う文化などを日本の文化情報として、新たに体験型でも少しでもいいのでやっていただけたら個人的には嬉しいと思う。

あとはイベントが菓子博も含めてこれから多くなっていくが、いつぐらいに何をやるというのがわかると、3ヶ月前に予約して旭川に行ってみようかといった予定も立てやすく、事業者も宿泊者などに対してアナウンスもしやすくなる。

日程やイベント内容がわかるような告知をどこかでしていただけるとありがたい。

4 報告

(1) 宿泊税の検討に関する進捗について

資料5に基づき報告、次のとおり質疑があった。

(委員)

宿泊税については、各界の皆さんからお話をいただいて、使途の部分については概ね旭川市の方向性が出たというぐらい煮詰まってきた。

この段階で皆さんと情報共有したい部分でいうと、これは旭川市の宿泊税だが、もっと広域は北海道の宿泊税というのも今問題になっている。宿泊税で税収を得たものを、コロナや大規模災害など有事に備えて一定額を基金に積み立てるといった話だったが、これができそうもないというような声が出始めている。

旭川市に関しては、宿泊税の一定額の一部を積み立てていくという声を行政の方で聞いていただいているので、絶対に独自にやっていただきたい。

道税がどうであろうが、旭川市税として総務省の認可を受けている。4月1日から適

時執行していただくというのが原理原則だと思う。

ただ、宿泊事業者の方から一つだけ言わせていただくとすれば、これは地方税の中の法定外目的税、目的を持ったものにしか使えない税であり、納税していただく方は宿泊客になる。宿泊客も観光だけではなく、例えば受験生や工事の職員さんが1ヶ月2ヶ月滞在をすとか、ビジネスマンが滞在するのと同じでおられる。この方々に対してただ観光に使うと言ってもご理解は得られないので、何が一番宿泊客の方々に直接的、間接的にも含めて利益になるのかというところ。

また、市民も宿泊者が入ることでいろいろ我慢をしたりする面があると思うが、ここは市民の方も同じく享受するような、例えば防災の関係で、宿泊者だけでなく市民の方が有事の際には使えるものの整備や、Wi-Fi化を買物公園全域にという声もあった。宿泊の方も使えるし、市民も享受できるかたちのご意見を出していただければ、よりよい使い方ができると思う。

(2) 使用料・手数料の見直しについて

資料5、6に基づき報告、次のとおり質疑があった。

(委員)

動物園の入園者数は若干であるが減っているとの報告があった。年間パスポートを買って動物園で動物を見るだけではなく、憩いの場、交流の場として普段使いしている、そういう場所になってほしいという声がたくさんあるので、市民の割合は低いかもしれないが、地元の人たちの足が遠のくことのないよう市民料金やパスポートの料金を配慮をしていただきたい。

(旭山動物園長)

令和6年度まで入園者数は回復傾向にあるものの、パスポート利用者による入園者数は全体的な増加の中で減少傾向にある。市民や地元の方の利用が減っているものと考え

る。今回の案では、市民やパスポートについては改定率を他より低めの1.29倍に設定している。改定後の料金に見合う魅力向上に努め、引き続き多くの方に来園していただきたい。

いただいた意見含め、個別説明会やパブリックコメントを通じて寄せられる意見を検討し、最終案に反映させる。

(委員)

例えば水族館は2,000円を超える価格設定のところもある。これから暑さへの対処も必要になってくる中で、お金がかかってくると思う。

市民料金は抑えつつも、1回あたりの改定料金の1,400円についてはリーズナブルだと思う。さらにパワーアップしていただきたい。

(旭山動物園長)

改定料金については取組指針に準じて上限1.5倍を意識した。

昨今の物価高を背景に、料金が高くなりすぎることによって旭山動物園が選択肢から外れた結果、旭川市内の観光客数へ影響する懸念もある。

周辺町村や道内の方々は1回だけだと一般料金適用になる。気軽に複数回来てもらうため、年間パスポートを安く設定する配慮をしているところ。

この後寄せられるご意見も踏まえて再度検討する。

(3) 令和8年度 機構改革について

資料7に基づき報告、質疑なし。

5 その他

事務局から次回審議会日程について説明があった。

6 閉会